

企画内容の詳細

3回連続の部会を通じて、災害対策における認識
合同部会を通じて、他部会の職員との十分な連携、顔の見える関係作り
来年度以降も同様の活動を継続することで有事に備え、連携強化

今回の宣言に至るまでの3つのルール

1. 問題点をすべて他責にしない。「私が、自分の事業所ができること」を考える
(「起こってみんと、わからんて」っていうのもダメ)
2. 勉強会終了後、必ず自事業所の職員に持ち帰り1名以上と協議する
3. 最終回で自分たちができそうなことを宣言して一歩前進したい

第一回 「地域を知る」 意識づけのために

1月24日開催 稲羽福祉コミュニティーセンター 13:00~15:00

パネラー	危機管理室	室長	山本室長
	高齢福祉課	課長	岩城課長
	各一医師会	防災担当	八木沢先生
コーディネーター	各サ一協議会	副会長	長縄先生
座長	各サ一協議会	会長	稲垣

パネルディスカッション終了後

全部会合同グループワーク出来る形式、包括圏域でチーム分け

ヘルパー、通所、施設、居宅がバランスよく

グループワーク（市の防災課の方にもお手伝い要請中）

防災マッピング 地域資源、一次避難所、福祉避難所の拠点

医療拠点、大規模事業所、透析、医療物資、情報拠点、水利、消防

事務局用意 各務原防災ハザードマップ、各務原市の白地図、色シール、アンケート

宿題 マッピングしたものを事業所に持ち帰り、必ず1名以上と、
自事業所内での対応、関係利用者さんについての想定を協議
各自の利用者さんにおける災害弱者になりそうな3名程度をピックアップ

第二回 「取組を知る」 役割づけのために

2月15日開催 稲羽福祉コミュニティーセンター（会場変更あり）13:00～15:00

前回振り返り

市内事業所などの先進取り組みとそのための解決していきたい課題

ニッケ 坂田苑長

七耀の杜 田井さん

民生委員 花田さん

ニチイケアセンター 高島さん

協議会（提言について）

資料活用（各事業所の役割について、見守りのための連携とは）

在宅サービス事業者の震災対策（事業者のためのBCPではなく、要援護者を地域で守るために

インターリスク研究所）

パネルディスカッション終了後

グループワークにて、各自ができること、連携してできること、

それぞれの問題点、出来るだけ前回と同様のグループで

宿題 事業所に持ち帰り、必ず1名以上と、自事業所内での対応、関係利用者さんについての想定を協議、自事業所で出来ること、自分でできることの素案を検討
災害弱者の優先度の高い方に対してどんな取り組みが出来るか検討

第三回 「我々のできることを知る」（宣言）

3月16日開催 会場未定（会場、時間変更あり）

13:00～16:00 前段でにんじん会議など共催の防災研修会終了後30分ほど

前回の振り返り、問題整理

各自事業所で出来ること

「私が、自事業所ができること」をグループ内で発表、宣言する